

せせらぎ通信

関東大震災における

金目川上流

・蓑毛付近の災害

要点

1923年に発生した関東大地震では、金目川上流域で崩壊が多発し、蓑毛地区は土砂災害による大きな被害を受けた。同年9月15日には降雨による3回の土石流が発生し、15戸の家屋が流出した。

詳細記録や考察は文末に参考資料として示す。

土砂災害

蓑毛は大山阿夫利神社に至る富士道と小田原道の合流点でもあり、大山詣での裏参道（昔は表参道とも呼ばれた）として、主に伊豆や駿河からの参詣者が蓑毛越えをしました。

ここには御師（おし）が居住し、儀礼や登山の案内を行った参詣者に宿泊の場を提供し、独特の門前町がつくられていました。また、周辺には平安時代後期に建てられた大日堂が今も威容を放っています。

しかし1923（大正12）年の関東大震災後に生じた土砂崩れで壊滅的な被害を受け、御師集落としての歴史は終わりを告げ、かつての門前町としての賑わいは「東坂本」の大山表参道（伊勢原市）に偲ぶほかありません。

それでも蓑毛地区には御師住宅が建っていた石垣の基壇や、往年の御師住宅の伝統を受け継いでいるような家もわずかに残されています。

育林

大正12年の関東大震災及び第二次世界大戦による乱伐で荒廃の極に達したが、その後林道整備や育林管理に心血を注ぎ、緑を回復した。

9月1日からの本震と余震により、秦野市北部の丹沢山地南斜面では崩壊率30%以上にも達する、非常に多くの方面に被害が発生した。このため、蓑毛や菩提では、多量の土砂が谷間にも堆積した。名古木（ながぬき）地区の正伝寺では寺東側の山が高さ50メートル、幅70メートルにわたって地すべりを起こし、児童2名が生き埋めとなった。「いとこ地藏」として建立された。（写真1）



正伝寺のいとこ地藏



9月12日～15日の台風襲来により多くの土砂災害が発生した。

丹沢山地から流出する谷川を土石がせき止め、数か所で溜池ができたが、9月14日から15日にかけての豪雨に見舞われ、河道閉塞していた土砂が決壊し、土石流となって、ものすごい勢いで流下した。幸い、多くの住民は高台に避難していて死者はでなかった。

（参考資料1より引用）

植生と丹沢再生

1923 年（大正 12 年）9 月 1 日に起きた関東大震災以来現在までの 50 年から 100 年という時間スケールで変化してきた丹沢での植生変化と土砂移動の変化の例を説明します。

かつての丹沢は、かなり貧弱な植生のところがあり、そこに関東大震災で沢山の斜面崩壊が発生しました。

現在、丹沢に多く存在する治山堰堤や砂防ダムは山地荒廃による土砂の移動に対処するために作られたものです。

現在は稜線部でのブナ林の衰退や人工林の手入れ不足などが心配される一方で、丹沢山地の山腹斜面の多くは関東大震災後に比べると格段に良く茂った森林で覆われるようになっています。

しかし、かつての山地荒廃の影響は、三保ダムや宮が瀬ダムに毎年堆積する土砂量の多さから、現在まで継続している。

（参考資料 2 より引用）



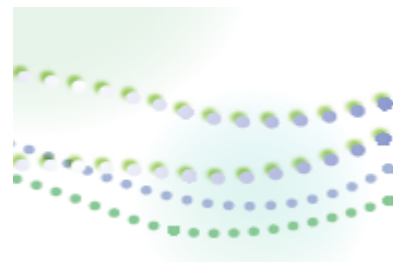
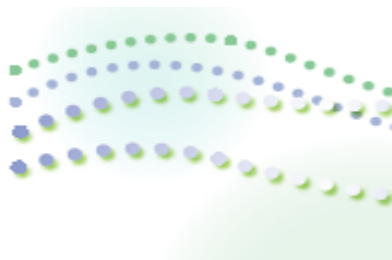
【参考資料】

- 1) http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/kaishi_26/HE26_01_13_04_Takemura.pdf 神奈川県秦野市での関東大震災の跡ーさまざまな被害の記憶 p.6 玉伝寺供養碑
- 2) http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/kaishi_24/HE24_053_064_07Inoue.pdf 関東地震(1923)時の震災地応急測定原図と土砂災害 p.62 出典 J(秦野市史 第5巻 近代資料)
- 3) http://machinokatachi.main.jp/14/14_minoge.html 町のかたち 村のかたち～蓑毛(御師(おし) 集落の痕跡)
- 4) <http://www.tanzawasaisei.jp/reports25/sympo2.pdf> 丹沢大山自然再生委員会
- 5) http://www.hirahaku.jp/web_yomimono/hirareki/hirareki01.html 平塚市博物館～号外『震災調査報告書』
- 6) https://www.asahigs.co.jp/kaname-net/event/report_20151030/kanamegawa.pdf 柳川三郎 『水を豊かにするための歴史』『あばれ川』『めぐみの川』金目川』
- 7) <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8C%AA%E4%BF%A3%E6%9D%BE%E4%BA%94%E9%83%8E> (猪俣松五郎) 金目村村長 関東大震災後は、その復興、金目川拡張・堤防工事を実施
- 8) <http://p.booklog.jp/book/86552/page/2306866> Puboo 関東大震災(第02章 揺れる大地) 平塚市広報 2015年3月号 (写真の藁葺家屋は倒壊し、再建された。)



(震災直後の流言)

- 9) <http://kanageohis1964.blog.fc2.com/blog-entry-272.html> 「湘南軽便鉄道」と「大山道」と水無川の流路変17) 神奈川県砂防史
- 10) <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420226/p27237.html> 矢倉沢往還 道中記
- 11) <http://home.e02.itscom.net/tabi/yagurasawa/11soya.html> 秦野市 関東大震災体験記 編集：秦野市環境農政部防災課
- 12) <http://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/contents/1001000001042/files/taikenki.pdf> 蓑毛の新しい道～御師の里 蓑毛で



- 13) https://www.jstage.jst.go.jp/article/sabo1973/48/3/48_3_48/_pdf 神奈川県土木砂防課 ～ 関東大震災による丹沢荒廃地
- 14) <http://dil.bosai.go.jp/disaster/1923kantoeg/kaisetsu.html> 防災科学技術研究所 関東大震災の概要
- 15) https://www.kahaku.go.jp/research/db/science_engineering/namazu/03kanto/03kanto.html 関東大地震写真

花水川左岸

耕地整理組合の

記念碑について

府川 清



県立平塚農業高校門前、八雲神社裏に建つ「記念碑」の内容全文を現代文にして、判りやすく紹介します。

以下は、井手栄二著「平塚の地誌」昭和六〇（一九五九年）稲元屋書籍店発行の本²⁵⁵、²⁵⁶頁に記載されている。なお、碑の裏面には関係者の氏名が五〇数名刻まれている。

（碑建立にあたって）

寄付した方の名前であろうか）湘南平塚の郊外、花水川左岸に沿って百余町歩（³30万坪・百万平方メートル総合公園の³倍）の田畑は、常に河川の氾濫、悪水の停滞、海潮の侵入、用水源の枯渇に悩まされていた。収穫が殆どないこともしばしばあった。道路・水路が備わらず、耕作の不便甚だしく、里人は長い間困っていた。

大正七（一九一八）年ついに改良しようと住民は発議し、十二月に測量設計願いを県に提出。実地の調査を願い、大正九年一月に「耕地整理組合」設立の認可を得て、直ちに工事をスタートさせた。

昭和三（一九一八）年八月、

第一区南原地域二十四町歩余、

第二区県立平塚農業学校敷地

八町三反歩余、

第三区平塚、高麗地域

八十二町八反歩余に対する

工事を完成。

耕地整理組合を解散し、平利用水

普通水利組合に組織を変更した。

十八年間にかけた費用は九万

八千八百余円であった。この間にお

ける組合員二百九十余人の一致協

力と、組合長原田敬治はじめ役員

の終始一貫熱い誠意と努力に特筆す

べきものがあつた。

ただ大正十二（一九二三）年九

月一日の関東大震災のため、事業完

了の遅れ、費用の増額をきたしそれ

を恨むも、県営河川改修工事と相ま

つて、

逆水止自動閘門（堰）の設置、

灌漑電動揚水機の建設、

低湿地の埋立て等により、

水害、干害を免れ、区画整然とし

て、通路東西南北に達し、歩行、運

搬大いに便利になり、耕作も甚だ仕

易くなった。排水路も完備し、湿地

も二毛作の田になり、収量も増大

し、農業の発展に寄与するところが

甚だ大きい。

後世長くその益を受け、子孫久しく恩恵に浴するであらう。

ここに組合員相はかり、碑を県立平塚農業学校門前の景勝の地に建て、ことの概要を石に刻み、未永く伝えんとする。

昭和十二（一九三七）年十一月

神奈川県立平塚農業学校長

清水勝雄 撰文

斉藤清之 書

この碑文は、合併前の平塚市における花水川沖積平野の水田地帯の耕地整理事業を記したものである。

現在の平塚市全体の水田地帯から見れば、猫の額のような狭く小さいものだが、旧平塚市にとつては最大の水田地帯であつた。

これを安定優良農地とするために、耕地整理をしたことを記念し、今後の平塚の農業発展と充実を願っている。だが、現在はずっかり都市化して、水田は消え、畑もほんの僅かとなった。地域の中心を流れていた共用水はダイクマ通り（県道・平塚秦野線）になり、商店街、住宅地などに変貌している。

現在ここに生活する市民も、行政も、これを知ることには深い意義があると思う。

94年前の関東大震災で当地は、約1¹/₂土地が隆起した。現在海拔4¹/₂の桜ヶ丘は、以前は3¹/₂であつた。水田は更に数十¹/₂低くかつた。

地震による地盤の隆起が幸いしたともいえる。



震災では現古花水バス停付近にあつた我家の庭は、液状化し裂け目から黒い水が湧いてきた。家々は地震で傾いた家をもとに戻し、茅葺きから軽いトタン屋根に変えた。

310年前の富士・宝永山の噴火では、当地に黒い火山灰が七、八寸（21¹/₂24¹/₂）積もつた。降雨のた

びに花水川は灰で埋まり、農民・住民は洪水とドロに難儀した。幕府の命令と住民の協力により、大きく東に蛇行した川筋を、現在の真っ直ぐな川筋に変える工事が行われ、問題を解決した。耕地整理が完成したのは、宝永山噴火後、230年が経過した1937年であつた。その30

年後にダイクマ通りは開通している。

近年多発する集中豪雨

柳川 三郎

集中豪雨（1時間降水量50mm以上の降雨）の発生回数は図のように近年増加傾向にあります。
集中豪雨に備えて都市部では雨水を流すための下水道を整備し、農村地帯では河川改修や堤防・ダム・遊水地の整備を行っています。

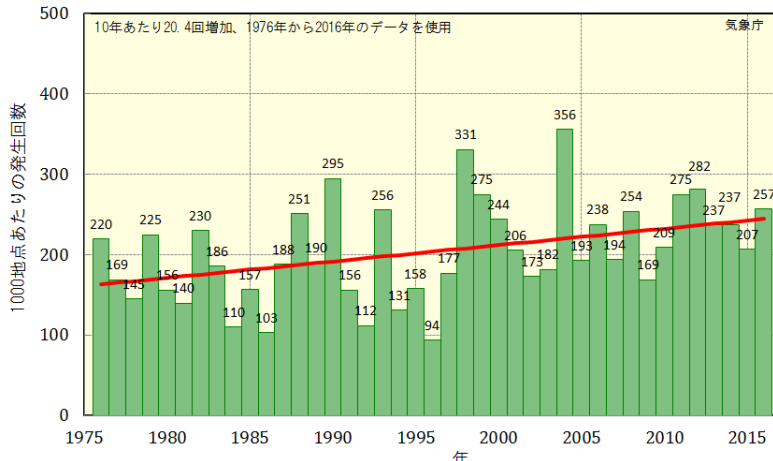
また、山間地では急斜面の保護工事を行っています。それでも一気に大量の雨が降ると、地下に多量の水がしみ込んで、土石流・地滑り・がけ崩れなどの土砂災害や川の水があふれて洪水などの河川災害を引き起こすことがあります。我が国は世界に類のない複雑でもろく不安定な地形と地質から成り立っています。

4枚のプレートがぶつかり合って地震や火山の活動が活発で地層や岩石は断層ですれたり、破砕したりしています。

我が国の国土の大半山地などで、地形は急で険しく降った雨は河川に一気に流れ下り、国民が安心して暮らせる場所は多くありません。

このような、地形・地質であるにも関わらず、人工の増加や都市化に伴って、国土を有効利用するため土砂災害や河川災害などの危険のあるところまで開発が進んでいます。

【アメダス】1時間降水量50mm以上の年間発生回数



「参考文献」JGCA



「湘南里川づくり」取り組みのご紹介



丹沢大山を源流に湘南地域を流れ、相模湾に注ぐ金目川（かなめがわ）水系。
“湘南里川（やつかわ）びっす”とは、湘南地域のふるさと川である金目川水系の河川等を地域の貴重な財産として次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民（湘南里川見守り隊）と行政の協働により清掃、草刈、植栽、生き物観察会など河川等の保全・活用に取り組む活動のことです。
この「湘南里川づくり」を流域全体に広げていくため、市民と行政とが連携し、設立された「湘南里川づくりみんなの会」。
「湘南里川づくりみんなの会」では、現在、「湘南里川見守り隊」の会員を募集中です。
みなで、活動情報を交換したり、金目川水系の理想像について語り合いませんか？
ぜひ、ご参加ください！

湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。
詳細は、ホームページで！

里川づくり

検索

問合せ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課

電話 (0463) 22-2711 (内線 2111~3)

ホームページアドレス <http://www.satokawa.com/>